

## 公正価値測定 ED コメント対応方針

全体を「論点」「明確化関連」「ガイダンス関連」「取り上げない」に分類。

### 【 論点 】 委員会レベルで検討を要するもの

（日本固有）

1. 時価と公正価値の読み替え（#3）
2. 他基準の修正要否（#8,95,96,97）
  - 1カ月平均相場、決算日の前後一定期間の直物為替相場の使用
  - 市場価格のない有価証券の減損処理（実質価額）
  - 実務対応報告25号の取扱い
  - 賃貸不動産の減損見積り（見積もり期間最長20年）
3. 四半期での開示要否（#33）

（IASB関連）IASBの動向により再検討を要するもの

4. 不確実性分析の開示（#86）
5. 最有効使用（#16）
6. 大量保有要因（#51）
7. 会計単位（#19）

## 【 明確化関連 】

## 重点検討項目

番号	内 容	日本固有
28	注記：対象範囲を具体的に記載する（年金資産）	日本固有
73	ブローカー等の価格利用の等には、不動産鑑定士の評価等も含むか	両方

## 検討項目

番号	内 容	日本固有
4	棚卸資産及びストックオプションを適用外とする理由	日本固有
30	注記：金利スワップの特例処理、割当処理の開示方法	日本固有
35	影響額の処理方法	日本固有
37	貸出金などセカンダリー市場がほとんどない場合の出口価格	
66	マルチプル法の取り扱い	
67,68	ビッドアスクの間にあることの確認 & 仲値の使用	
77,78	負債の移転の制限の取り扱い	

## 字句修正

番号	内 容	
11,12	市場参加者の定義（記載場所、関連当事者の関係）	
20	評価技法の記載場所（適用指針 > 基準本体）	
21,22	入力数値に関し「最大限利用する」「入手できる最良の情報」の意味	
44	業界団体等が公表する価格のレベル区分	
47	秩序ある取引でない例示されている 4 例の関係	
58,59	入力数値に関して合理的に入手可能の意味	
60,61	観察不能な入力数値における「最良」の意味	
85	レベル3の調整表における損益に含まれるもの	

## その他

番号	内 容	
17	最有効使用の「法的に認められる」と測定日の関係	
55	評価技法と入力数値のどちらを優先するか？	
71	資産又は負債の取引の数量及び頻度が著しく低下している場合	
80	注記： 評価技法変更時の注記	
82	レベル間振替時の注記	

## 【 ガイダンス関連 】

## 重点検討項目

番号	内 容	日本固有
62	レベル2、3の入力数値の具体例	
63	賃貸等不動産のレベル区分	両方
84	不確実分析関連	

## 検討項目

番号	内 容	日本固有
52	市場性欠如によるディスカウント	
53	支配プレミアム	
98	企業結合の説例	

## その他

番号	内 容	
23	レベル1判定時の「十分な数量及び頻度」	
24	レベル2とレベル3の判定基準	
25	入力数値の優先順位（レベル区分 vs 自社・ブローカー）	
26	レベル別判定における「重要な影響」	
31	注記： レベル別注記のガイダンス	
48	資産又は負債に固有の要素の公正価値への反映方法	
56	複数の評価技法を用いた時のウェイト付け	
64	1平米あたりの価額のレベル区分	
75	ブローカー情報の確認方法	
79,81	入力数値の開示例	
87	シナジー効果	
88	資産又は負債の取引の数量及び頻度が著しく低下している場合の判断を客観的に行うことが困難な場合の取り扱い	
91	金融商品の時価等に関する適用指針の開示例にそったレベル区分の判定に関する具体例	
92,93	賃貸不動産の開示例	

**【 取り上げない 】**

上記以外

（但し、今後の審議によっては上記の3分類に含める可能性もある）